

学習会のお知らせ

聖武天皇 彷徨5年を読む 中編・後編

前回の学習会で「続日本紀」の天平12年10月「朕、思うところがあり暫く関東に行く」という記事から、いわゆる「彷徨5年」を読み、天平13年3月に恭仁宮で「国分寺造立の詔」を発出。その後、平城京の兵器や二市を恭仁京に遷し、行基集団により木津川に大橋も架橋された。天平14年2月には甲賀郡に通じる東北道も開通し、同年8月11日に甲賀郡紫香楽村に行幸する為、造離宮司を任命する。同月27日に初めて紫香楽宮に行幸した。そして、年末に再び紫香楽宮に行幸するのであった。迄読みました。

次回2回の学習会では、いよいよ聖武天皇が天平15年正月から恭仁・紫香楽・難波とまさに彷徨っていると言える行幸を繰り返します。しかし、紫香楽での廬舎那仏造立という念願は挫折し、消沈の中、天平17年5月11日5年ぶりに平城の地を踏むこととなります。正史である「続日本紀」は淡々と出来事を記すのみで、聖武天皇の思いは、推測するしかないので、出来る限り解き明かしたいと思います。前回不参加の方も少しでも地域の歴史に興味のある方なら、どなたでも参加頂けます。是非、ご来場下さい。

記

日時:中編/令和8年5月17日(日)13:30~15:30 受付13:15から

後編/令和8年6月21日(日)13:30~15:30 受付13:15から

場所:どちらも 甲南公民館(プララ南側) 大会議室 (前回と会場を変更しています)

会費:100円 (資料代です。会員・会員外とも同額) 当日受付でお支払いください。

申し込み不要です。

但し、前回出席された方は出来るだけ前回の資料を持ってきて下さい。

お問合せ先:田村幹夫(0748-86-3794 または 090-9042-4521)